

JGC

2025年3月期

FY2024

決算概要



Enhancing planetary health

2025年5月14日

日揮ホールディングス株式会社

本資料の複製・転載・改変・再配布を禁止します。

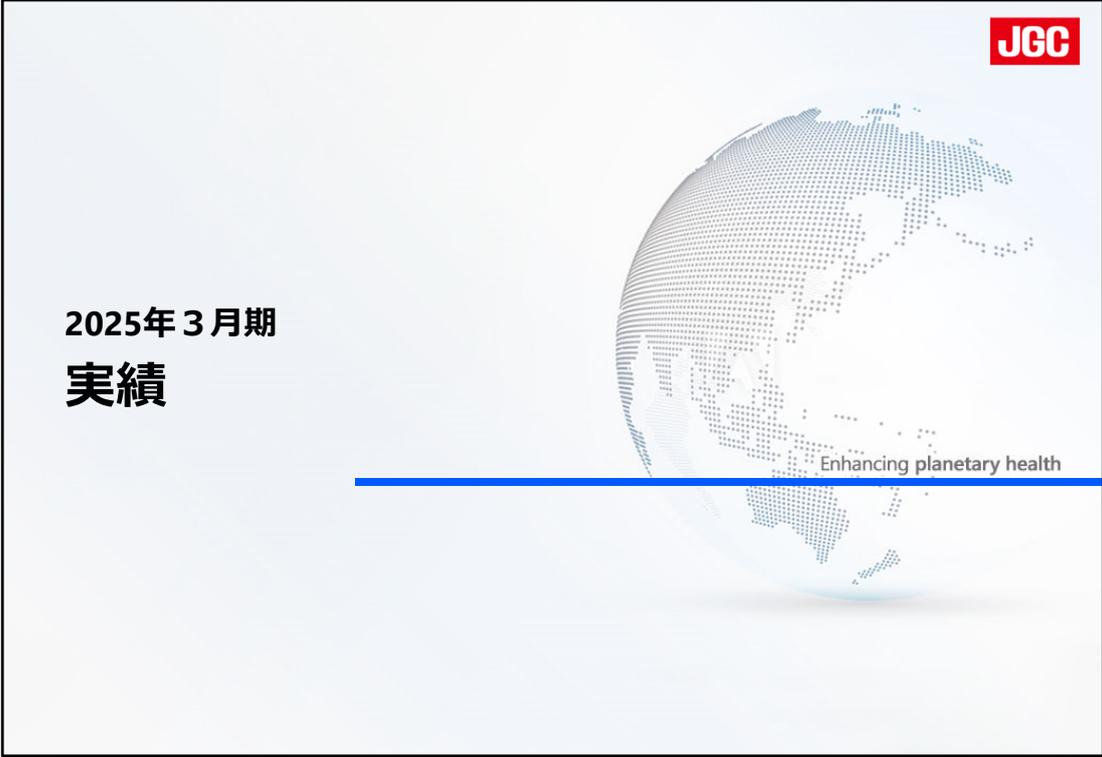
執行役員ファイナンスユニット部長の田口です。
2025年3月期の決算概要についてご説明させていただきます。

目次

- 2025年3月期 実績
- 2026年3月期 予想
- 参考資料



最初に2025年3月期の実績、次に2026年3月期の通期業績予想についてご説明します。



最初に2025年3月期の実績です。

ハイライト

	予想	実績
受注高 (総合エンジニアリング事業)	9,700	9,225

	予想	実績
親会社株主に帰属する当期純損失	△ 40	△ 3

- インドネシアの大型EGR^{※1}/CCUS^{※2}陸上設備の受注を計上し、2024年度受注高は期初予想に迫る9,225億円を確保
- 複数の国内プロジェクトの完工等による粗利益の増加、投資利益の上振れ等により最終損失が縮小
- 1株当たり配当金40円（変更なし）

【第3四半期の下方修正要因のアップデート】

台湾LNGターミナル	遅れていた一部建設用地の引渡し段階的に進展
サウジアラビア 2案件	財務的困難に陥ったサブコントラクターとの契約は代替措置を取りながら工事を遂行中
カナダLNG	見直し後の計画に沿った建設工事作業員の追加動員が進み、作業が進行中
不稼働費用負担	想定範囲内で推移

※1 Enhanced Gas Recoveryの略。天然ガスの増進回収技術。
※2 Carbon Capture, Utilization and Storageの略。排出されるCO2の回収、利用、貯留による温室効果ガス排出量の削減を図る技術。

2024年度のハイライトです。

12月に発表済みのインドネシアの大型案件の受注を第4四半期に計上し

2024年度の受注高は9,225億円となりました。

業績面では、第4四半期に国内のプロジェクトの完工などにより粗利益が積みあがったこと、持分法投資利益の上振れなどがあり、最終損失は3億円に縮小しました。

1株当たり配当金は40円に変更ありません。

第3四半期に業績予想の下方修正をしましたが、その後の状況です。台湾LNG受入基地では、建設用地の引渡しの遅れにより予算を見直しましたが、その後、一部では用地引渡しが進んでいます。サウジアラビアで起用して

いるサブコントラクターの財務的困難への対応は継続中です。カナダのLNG案件では完工に向けた作業促進のための追加動員が計画通りに進んでいます。不稼働費用は24年度の予想に織り込んだ範囲内での着地となり業績への追加影響はありませんでした。

連結損益計算書

	FY2023	FY2024	前期比		【億円】	
					FY2024 業績予想	予想比
売上高	8,325	8,580	+254	+3%	8,300	+280
売上総利益	106	189	+82	+77%	170	+19
利益率	1.3%	2.2%	+0.9pt		2.0%	+0.2pt
営業損失	△ 189	△ 114	+75	-	△ 140	+26
経常利益	3	113	+109	+3,054%	60	+53
親会社株主に帰属する 当期純損失	△ 78	△ 3	+74	-	△ 40	+37
1株当たり当期純損失	△ 32.48円	△ 1.65円				
自己資本当期純利益率	△ 2.0%	△ 0.1%				

連結損益計算書です。

第3四半期に修正した業績予想との比較で説明します。

売上高は8,580億円と予想を280億円上回りました。総合エンジニアリング事業の大型プロジェクトで想定以上の進捗がありました。

売上総利益は189億円。総合エンジニアリング事業の国内工事での完工に伴う利益計上などにより予想を19億円上回りました。

営業損失は予想▲140億円に対して▲114億円となり、26億円改善しました。

経常利益は113億円。営業利益の増加に加え、持分法投資利益及び受取配当金の上振れにより予想比53億円増となりました。

親会社株主に帰属する当期純損失は、▲40億円の予想に対して37億円改善して▲3億円で着地しました。

セグメント情報

【億円】

		FY2023	FY2024	前期比		FY2024 業績予想	予想比
総合エンジニアリング	売上高	7,731	7,949	+218	+3%	7,680	+269
	セグメント利益・損失(△)	△ 220	△ 145	+75	△ 34%	△ 160	+15
	利益率	△ 2.9%	△ 1.8%	+1.1pt		△ 2.1%	+0.3pt
機能材製造	売上高	520	546	+26	+5%	540	+6
	セグメント利益・損失(△)	72	81	+9	+13%	80	+1
	利益率	13.9%	15.0%	+1.1pt		14.8%	+0.2pt
その他	売上高	74	84	+9	+13%	80	+4
	セグメント利益・損失(△)	20	24	+3	+20%	20	+4
	利益率	26.9%	28.4%	+1.5pt		25.0%	+3.4pt
調整額	セグメント利益・損失(△)	△ 61	△ 74	△ 13	-	△ 80	+6

セグメント情報です。

こちらも第3四半期の修正予想との比較で説明します。

総合エンジニアリング事業は売上高7,949億円と予想を269億円上回りました。

海外の大型案件の進捗が伸びました。

セグメント損失は予想から15億円改善し▲145億円です。国内工事の完工に伴う

利益計上で見込んでいなかったものが積みあがったことなどにより

上振れとなりました。

機能材製造事業は小幅ながら増収増益となりました。売上高546億円、

セグメント利益81億円です。

半導体関連やハードディスク関連材料などの需要回復によりファイン

ケミカル・ファインセラミックス分野が堅調に推移しました。

その他、調整額は記載の通りです。

セグメント情報

受注の状況（総合エンジニアリング事業）

i) 受注高

【億円】

	FY2023	FY2024
海外	1,366	8,320
国内	1,572	905
合計	2,938	9,225

FY2024
主要受注案件

大型低炭素LNGプラント(UAE)
大型EGR/CCUS陸上設備（インドネシア）
製油所近代化に係る技術移転業務（イラク）

受注の状況です。

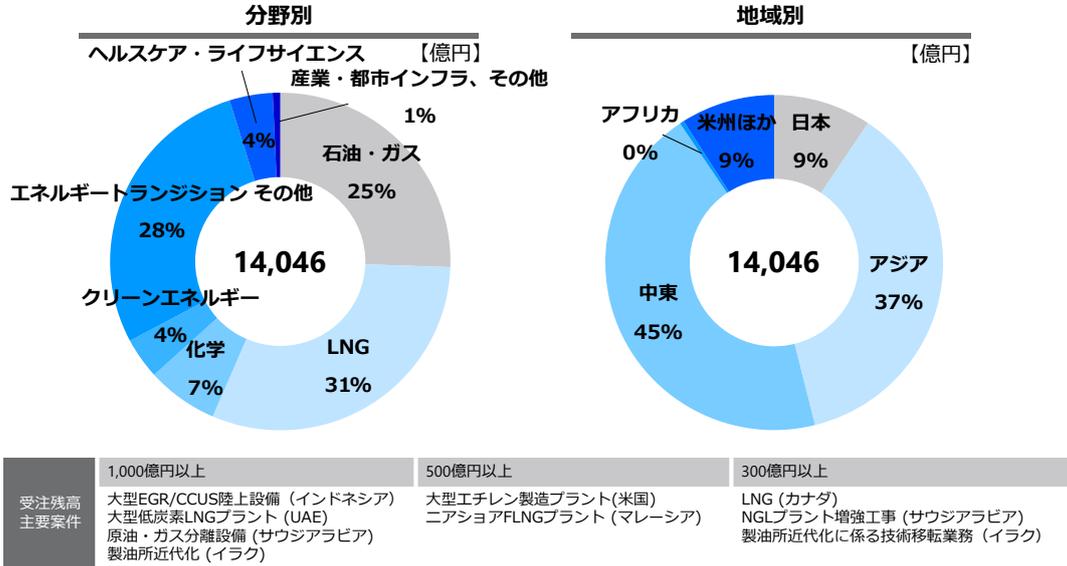
2024年度の受注高は、海外8,320億円、国内905億円、合計9,225億円となりました。

第4四半期にインドネシアの大型EGR/CCUSプロジェクトの受注高を計上しました。

また、遂行中のイラク製油所近代化プロジェクトの操業に係る技術移転業務の追加受注も計上しました。

セグメント情報

ii) 受注残高 (2025年3月末)



受注残高です。

2025年3月末の受注残高は1兆4,046億円と、期初から約1,600億円増加しました。

第4四半期受注のインドネシアEGR/CCUS案件を計上したことで分野別では「エネルギー・その他」が28%となり、前四半期末42%だったLNGは31%に、石油・ガスは36%から25%に下がりました。

地域別では「アジア」の比率が37%となり、過半を占めていた中東が45%に下がりました。

受注残高の主要案件の内、1,000億円以上のサウジアラビア原油・ガス分離設備と300億円以上の同じくサウジアラビアのNGLプラント増強工事の2件が損失引当案件となります。

原油・ガス分離設備案件は、計画に沿って進んでおり現場工事が最盛期を迎えています。大部分の機器は現場に到着しており据付工事が進行中です。NGLプラント増強工事では、財務的困難に陥ったサブコントラクターとの契約を解消し、直接雇用に切り替えて工事を進めています。

これら2件以外に懸案プロジェクトが4件ありますが、進捗が進み受注残高は300億円未満です。

連結財政状態及びキャッシュ・フロー

【億円】			
	2024年3月末	2025年3月末	増減
総資産	7,922	7,841	△ 81
純資産	3,878	3,922	+43
自己資本比率	48.7%	49.8%	+1.1pt
JVキャッシュ 当社持分	1,481	935	△ 545
	FY2023	FY2024	前期比
営業 キャッシュ・フロー	110	467	+356
投資 キャッシュ・フロー	△ 202	△ 211	△ 9
財務 キャッシュ・フロー	△ 88	△ 150	△ 61
現金及び現金同等物の期末残高	3,245	3,327	+82

連結財政状態とキャッシュ・フローです。

総資産は横ばいの7,841億円、純資産は「その他有価証券評価差額金」の増加により若干増加の3,922億円、自己資本比率は49.8%でした。

バランスシートに計上していないジョイントベンチャーのキャッシュの当社持ち分は期首から545億円減少して935億円でした。

営業キャッシュ・フローは、国内外プロジェクトで債権回収が進んだことなどにより467億円のプラス、

投資キャッシュ・フローは、有形固定資産の取得などで211億円の支出、

財務キャッシュ・フローは、配当金支払、海外子会社での短期借入金返済などにより150億円のマイナス、

現金及び現金同等物の当期末残高は期首からほぼ横ばいの3,327億円でした。

2026年3月期 予想

A stylized globe composed of a grid of small dots, showing the continents of Asia and Australia. It is positioned on the right side of the slide.

Enhancing planetary health

次に、2026年3月期の業績見通しについてご説明します。

2026年3月期の業績見通し

	【億円】	
	FY2024 実績	FY2025 予想
受注高(※)	9,225	6,500
売上高	8,580	6,900
売上総利益	189	520
利益率	2.2%	7.5%
営業利益・損失(△)	△ 114	210
経常利益	113	220
親会社株主に帰属する当期純利益・損失(△)	△ 3	150
1株当たり配当金	40.00円	40.00円
換算レート(米ドル)	149.52円	140.00円

(※) 総合エンジニアリング事業

総合エンジニアリング事業の受注高は、6,500億円を見込みます。新しい大型LNGプロジェクトの検討は数多く進んでおり、FEED案件の受注が複数見込まれます。EPC契約の受注時期は投資決定が年度後半から来年度以降になると見られるため、単年度の受注高の金額としては前期比で減少を見込んでいます。

売上高に貢献する大型EPC契約の受注時期が後ろ倒し傾向にある状況を踏まえ、今期受注を期待する大型プロジェクトの売上・利益計上は限定的になるペースで業績の予想をしております。

また、遂行中の海外大型案件が複数、終息に向かうこともあり、売上高は前期比2割減の6,900億円を見込みます。

売上総利益は520億円、粗利益率7.5%です。

損失引当を行っているプロジェクトがまだ全体の売上の20%弱あり、利益率は改善の途上となります。

営業利益は210億円で黒字化、

経常利益は220億円、

親会社株主に帰属する当期純利益は150億円です。

1株当たり配当金は下限の40円とする計画です。

2026年3月期 セグメント別 業績見通し

【億円】

		FY2024 実績	FY2025 予想
総合エンジニアリング	売上高	7,949	6,280
	セグメント利益・損失(△)	△ 145	200
	利益率	△ 1.8%	3.2%
機能材製造	売上高	546	540
	セグメント利益・損失(△)	81	70
	利益率	15.0%	13.0%
その他	売上高	84	80
	セグメント利益・損失(△)	24	20
	利益率	28.4%	25.0%
調整額	セグメント利益・損失(△)	△ 74	△ 80

セグメント別の業績見通しです。

総合エンジニアリング事業は、今期受注期待の大型プロジェクトの売上・利益計上を限定的に見たこと、複数の遂行中大型案件が終息に向かうこと、前期受注の大型プロジェクトはまだ開始序盤で進捗が伸びないことなどを

反映して大幅減収の売上高6,280億円、

セグメント利益は黒字転換して200億円の予想です。

機能材製造事業は、売上高は前年度並みの540億円、

セグメント利益は人件費、原材料費の増加などを見込み減益予想の70億円です。

以上です。

将来の見通しに関するご注意事項

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。またこれらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。

従いまして、本情報および資料のご利用は、他の方法により入手された情報とも照合・確認し、ご利用者の判断によって行ってくださいますようお願いいたします。

本資料ご利用の結果、生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

＜本資料に関するお問い合わせ先＞
日揮ホールディングス株式会社
戦略企画オフィス 経営企画ユニット
コーポレートコミュニケーショングループ
Tel : 045-682-8026 Fax : 045-682-1112
E-mail: ir@jgc.com